2年間サバイバルゲーム改

アルタイル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
２年間サバイバルゲーム改

【Ｎコード】
Ｎ６３５４Ｖ

【作者名】
アルタイル

【あらすじ】
電話でプルプル
サバイバルゲーム改の始まりだ～い

第一話終わりが始まる！（前書き）

改めて書きました！
今度こそちゃんと続けますので
応援よろしくお願いします。

第一話終わりが始まる！

僕の名前は、安田紀彦（やすだ　のりひこ）。
高校３年だ。

ある日、僕は部屋にこもっていた。
親に何か言われるのがいやだったからだ。

「早く出て来なさい？私に何か言われるのが嫌なの？」
「うるせーんだよ？どっかいけ？」

ついつい暴言をはいてしまった。
僕は、悲しい気持ちと、イライラで、机を蹴った。
すると、机の引き出しから紙が一枚落ちて来た。

「なんだ？これ？」

よーく見ていると、親が戻ってきて夕飯が出来たといって来たので、
仕方なく、下に降りて行った。

「さっきの紙何だったんだろう？」

戻ってきて、もう一度あの紙をみた。

”０４５６－５６－９４６２”

と書いてあった。
僕は書いた覚えはないけど気になり、
その電話番号を、公衆電話で掛けてみた。

プルルルルルル
プルルルルルル
ガチャ
「はい。こちらに掛けられたお客様は、２年間サバイバルゲームの参加
希望の方ですね。」
「はい？」
「あなたのエントリーナンバーは、３。
パスワードは１３１１です。
忘れたり、参加しなかった場合は死刑です。」
「あの…意味が分からないんですが…」
「日にちは２９００年１０月２日です。」

確か今日は、２９００年９月３０日だ！

「場所は、レインボーブリッジです。
では１０月２日までさようなら。」
プツ
プー　プー　プー
意味が分からない…
こうして安田の２年間サバイバルゲームがはしまる！

第二話開始

現在２９００年１０月２日。

レインボーブリッジの真ん中らへんにいる。

そう、あの悪魔のようなゲームが始まる5分前だ。
公衆電話で電話した後の僕の行動を教えてあげよう。

２９００年９月３０日

「意味分からん。なんなんだ？いったい。」
途方に暮れた僕は、いったん自分の家に帰った。

「確か行かないと死刑っていってたな。でも、本当か分からないけど…
どうしよう。」
家に帰っても、意味が無かった。
ただ、この事をまだ親にいってなかった。
むろん、話をしたくなかった。

いろんな事を考えているうちに、2日がたった。

こうして、現在にいたる。

”皆さん、お集まりいただき、ありがとうございます。
近くにいる、スタッフに電話した時に言われた、事を全て
いって下さい。言えなかった人は、即射殺します。
こちらは、発砲許可が降りています。”

との、スピーカーから、声が聞こえた。

どうしよう。

第三話　紀彦サバイバルを行う準備をする。（前書き）

お待ちかねの第三部！

第三話　　紀彦サバイバルを行う準備をする。

あのスピーカーから発せられた魔の言葉。
まだ深く心の中で響き渡っている。
”発砲の許可が降りている。”
そこがものすごく心に残った。

「誰から発砲の許可が降りたのだろう。」
俺はそうつぶやいた。
確かに今の日本は独裁国家に変わり、経済、政治、などがバラバラになり、
治安が悪化している。
証拠として国内に銃の所持が解禁され、国民一人につき三丁まで銃の所持が許可されている。
が、殺人は徹底的に処罰される。
人を一人殺すと終身刑。二人殺すと首切り。三人殺すと…
のように人数が増えるごとに残酷な処罰になる。
そんな国がなぜ？
そう思ったからだ。
すると、先ほどのスピーカーでいっていたスタッフがアサルトライフルを片手に

「エントリーナンバーとパスワードをいえ。」
といってきた。

「その前に誰から発砲の許可が降りたのですか？」
と聞いた。すると、

「誰から？ハッ！笑わせるなよ。決まっているじゃないか。

独裁者の佐渡（さわたり）　広務（ひろむ）様と君の”両親”からだよ！」
「な…なんだと！」
独裁者が許可したのはだいたい予想はしていた。
だが、両親が許可したなんて…
「う…嘘だ！嘘をつくんじゃ無い？」
「分からず屋だな。君は。
まず独裁者が許可したのはだいたい分かるだろ？」
「あ…あぁ。」
「君の両親…いや、参加者全員の両親と言った方がいいか。
その両親達は、君のような反抗的な子供はこの国にいらない、
というテーマで話し合いをした。ちょうど一ヶ月前くらいだ。
そしてたどり着いた答えが、その反抗的な子供同士でサバイバルをさせ、
この世の厳しさ、親の大切さを学んでもらうというゲームを用意した。」
「急過ぎて話がまとまらないが、だいたい分かった。」
「分かったならもういいだろう。
エントリーナンバーとパスワードをいえ。」
「聞きたいことがまだある…」
「こっちも好きでやっているんじゃない！早く言え！」
「わ、分かったよ。
エントリーナンバーは、３。
パスワードは、１３１１だ。」
「それでいいんだよ。じゃあ、先にあるテーブルの上にある
”武器”を３つ選んでこい。」
「ぶ…武器？」
「早くしろ！鉛のごほうびがほしいのか？」
「いえ。いりません。」
「じゃあ早くしろ！」
「分かりました。」

といい、先にあるテーブルに向かった。
テーブルの上には、銃やチェーンソー、刀、スタンガン、ｅｔｃ…があった。
俺は銃を二丁とチェーンソーを手にとった。

「これぐらいでいいか。」
とテーブルをあとにした。
いまの選択がのちの運命に大きく関わることも知らずに。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6354v/

2年間サバイバルゲーム改

2011年10月8日18時57分発行